

2024年3月8日 金曜日

意見交換会

今回のSec道後では、愛媛大学の学食を会場として、意見交換会が開催されました。愛媛の地酒、蜜柑やイチゴ、じゃこ天、みかんジュースが出る蛇口などの試食もふるまわれ、盛況に開催されました。



ナイトセッション (1)

ナイトセッション (1) では、企業から5件のサイバーセキュリティに関する取り組みが紹介されました。



○Webマーケティングでセキュリティ人材不足を解消！

発表者：株式会社セキュアオンライン 代表取締役 角田 優剛 氏

初めに、会社概要について、株式会社セキュアオンラインは、サイバーセキュリティに特化したSecDogo Digest, サイバーセキュリティシンポジウム道後2024

メディア運営やクラウドソーシング事業を展開していることを説明されました。次に、日本におけるセキュリティの課題は人材不足や企業のセキュリティ対策の不十分さを示されました。最後に、その解決策としてセキュアオンラインのセキュリティに特化したクラウドソーシングを提案されました。

情報処理安全確保支援士の資格に対するメリット不足や実態への疑問が述べられ、自社サービス「セキュリティエージェント」の役割が紹介されました。アンケート結果によれば、人材不足に対する社外委託が一般的であり、「セキュリティエージェント」の導入により、企業や国、セキュリティ関連企業に多様なメリットがもたらされることが期待されています。

○企業セキュリティの歩き方・番外編～稼げるセキュリティ資格とキャリアパス～

発表者：株式会社ベリサーブ ソリューション事業部 マーケティング部長 武田 一城 氏

セキュリティの分野では、稼げる仕事が増えていきますと強調されました。これは、セキュリティ業界が成長し、需要が高まった結果と述べられました。昔は企業にとってセキュリティはコストでしかありませんでしたが、2011年の防衛産業を狙った標的型攻撃などの事件がターニングポイントとなり、セキュリティに関する資格や技術の需要も増え、高待遇の仕事が増加していることを説明されました。セキュリティの技術を証明するために、CISSP、SISA、GIACなどの資格を組み合わせることで取得することが重要であり、キャリアパスの拡大もセキュリティ業界でのキャリア構築に役立つことを紹介してくださいました。

○国内被害を二分するモバイルマルウェア「XLOADER」と「KeepSpy」を追う

発表者：トレンドマイクロ株式会社 スタッフスレトリサーチャー 河田 芳希 氏

セキュリティエバンジェリスト 岡本 勝之 氏

講演では、日々拡大するフィッシング被害に関する脅威のリサーチ結果について示されました。特に、XLOADERとKeepSpyというアンドロイドマルウェアが日本国内で蔓延し、宅配便や銀行を装ったフィッシング詐欺が増加していることが問題になっています。これらのマルウェアの感染

経路や被害、そして感染の確認方法が詳細に説明されました。さらに、KeepSpy の動作デモが行われ、マルウェアの危険性や対策の重要性が示されました。

○こんなにあるチェックポイント AI ネイティブ時代は、面でセキュリティを担保

ーネットワークからソフトウェアまでー

発表者：フォーティネットジャパン合同会社

技術統括本部 パートナービジネス技術本部システムエンジニア

川原 翔 氏

セキュリティ対策では、点での対策ではなく面でのアプローチの考え方が重要と説明されました。デジタル化と AI 化が進む中で、ネットワークとエンドポイントセキュリティの重要性が高まっています。特に、ランサムウェアや国家ぐるみの攻撃などの脅威に対処する必要があります。また、アプリケーション開発におけるセキュリティも重要であり、DevOps プロセスにセキュリティを組み込むことが開発段階での脆弱性発見に役立ち、手戻りのコストを最小化するために重要です。また、DevSecOps の実現に向けた製品の紹介がありました。

○セキュリティ人材モデルの定義と育成カリキュラム策定

発表者：グローバルセキュリティエキスパート株式会社

常務取締役 西日本支社長 三木剛 氏

CEH/CND の認定団体である EC-Council が提供するセキュリティ人材育成プログラムは、エンドユーザー、IT 企業、SIer 向けに設計されています。このプログラムでは、半年間のハンズオン実践を通じて資格を取得するだけでなく、セキュリティに関する知識を持たない人々にも学びの機会を提供されています。さらに、製品開発プロセスにおけるセキュリティの重要性や各部門で必要な役割について深く考察され、人材モデルを 10 種類にモデル化しています。また、スキル育成マトリックスや可視化ツールを用いて、現在の人材を期待されるレベルに引き上げる取り組みが行われています。セキュリティに関する資格を推奨資格から必須資格にすること、必要な人材を定義し

て育成カリキュラムを作ることが、人材育成において重要と述べられました。

ナイトセッション (2)

テーマ「四国4県警のサイバーセキュリティに係る課題と対策」

座長：下津 明彦 氏（愛媛県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課）

杉野 淳 氏（愛媛県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課）

松永 祐二 氏（香川県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課）

小笠原 正純 氏（高知県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課）

森本 直樹 氏（徳島県警察本部警務部企画・サイバー警察局サイバー戦略推進課）



最初に、杉野淳氏から全国のサイバー犯罪の検挙状況やインターネットバンキングに係る不正送金事案、ランサムウェア被害件数について紹介されました。次に、四国4県（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）でのサイバー犯罪の現状が示され、各県でのサイバー犯罪に関する検挙件数と相談受理件数の推移や課題・対策について紹介されました。高知県以外では、サイバー犯罪検挙件数が年々増加傾向とのことでした。

徳島県では、官民連携の推進が課題となっています。徳島県サイバーセキュリティ協議会等の枠組みを活用し、サイバーセキュリティの向上に取り組んでいる団体・個人と協力して活動を行うことが今後の方針となっています。香川県では、SNS を利用した投資詐欺が急増しており、対策として、通報・相談しやすい環境の整備や、サイバーかるた等の広報啓発活動の強化が行われていま

す。愛媛県では、サイバー犯罪疑似体験ツールを活用し犯罪被害を体験することにより、実際に犯罪に巻き込まれない取り組みが行われています。高知県警察では、高知工科大学の清水明宏教授をお呼びし、警察官のサイバーセキュリティに関する知識を強化しています。

セッションの参加者と四国4県警の方々と、フィッシング詐欺等のサイバー犯罪やサイバー防犯ボランティアの活性等について意見交換が行われました。

ナイトセッション (3)

テーマ「クラウドサービスがサイバー攻撃を受けた関係当事者間の法的責任と実務上の留意点」

座長：西尾太一 氏（名古屋地方裁判所民事第3部・判事）

山岡裕明 氏（八雲法律事務所弁護士）



民法では契約があるものとなないものに分類されると説明がありました。クラウドやサイバーセキュリティなどの新しい事象ほど古典的な考え方が必要です。クラウドサービスがサイバー攻撃を受けると、ベンダーだけでなく多数のユーザーにも被害が発生し、当該ユーザー企業がサービスを提供するエンドユーザーにも損害が発生するという同時多発型の事故が生じることになってしまうと述べられました。ナイトセッションでは、具体的事例をもとに、この問題に関する解説が行われました。

ナイトセッション（4）

「医療機関のセキュリティ対策：現状と未来」

座長：松山 征嗣 氏（トレンドマイクロ株式会社）

有森 貞和 氏（株式会社両備システムズ）



セッション冒頭では、松山先生より過去に起きた医療機関における主なサイバーインシデントについてご説明がありました。また、有森先生からは徳島県医療機関サイバーセキュリティ体制構築支援業務での医療機関のサイバーセキュリティ脅威に対するリスク評価・結果についてご説明がありました。

議論トピックとして「ベンダー側から見た課題/医療機関の組織的・人的課題」、「ベンダー側にある課題/医療システムにおける課題」、「ベンダー側にある課題/セキュリティ業界側の課題」の3つが挙げられました。

「ベンダー側から見た課題/医療機関の組織的・人的課題」では医療DXの現状と、推進するための施策についてご説明がありました。座長らが課題を説明し、ベンダー側から見た医療機関の組織的・人的課題について議論が行われました。

「ベンダー側にある課題/医療システムにおける課題」では病院システムについてご説明があり、課題として現場の効率優先やセキュリティ人材不足、レガシー環境の利用などが挙げられました。参加者から、医療分野に限らずベンダー側から見た導入・保守・運用の現状について共有され、課題について議論が交わされました。また、有森氏から実際に経験した事例についての説明もあり、非常に多くの課題が残されているとのことでした。

「ベンダー側にある課題/セキュリティ業界側」では、システムインテグレーションとサプライチェーン構造についてご説明があり、対象事業者と医療機関等の合意形成が重要になるとのことでした。合意形成のためのガイドラインとして、“医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン（通称：2省ガイドライン）”についてのご説明もありました。課題としては、商流にある企業の対応が不十分な点や、運用フェーズの支援が乏しい点、閉域網に対するセキュリティ対策が提案できない点などが挙げられました。参加者からはツールからログ分析、教育の話まで様々なトピックで深く議論が交わされました。松山先生はベンダーが育つ環境が重要であり、セキュリティ業界の方からベンダーへ寄り添う姿勢が必要なのもかもしれないと述べられました。

会場からは積極的に質問や意見が飛び、医療機関を支援するベンダーはこの先どうあるべきか、現在の課題や将来の展望について議論の深まるナイトセッションとなりました。